

「バガヴァッド・ギーター～その教えを毎日の生活に活かす - 3」



神の恩寵において、どんなことでも可能になります




パンダヴァ家の5人兄弟も、そして闘いの相手であるカウラヴァ家のグループも、クリシュナ神の献身的な信者で、その助言を求めました。


クリシュナ神がベッドで眠っているときに、パンダヴァ家のアルジュナとカウラヴァ家のドルヨーダナが、それぞれ部屋に入り、クリシュナ神が目覚めるのを待ちました。クリシュナ神が目を覚ました時に、その足元に座っていたアルジュナは、「あなたの助けがほしくてここに来ました。」と言いました。枕元に座っていたドルヨーダナも同じことを言いました。するとクリシュナ神は、こう答えました。「どちらのことも助けよう。二人に二つの選択肢をあげよう。一方には、私が御者として一緒にいるが武器や軍隊は授けない。もう一方には、私の武器と軍隊を授ける。」アルジュナは、「私が欲しいのは武器ではなくて、あなたの存在そのものです」と言いました。ドルヨーダナは、クリシュナ神の武器と軍隊を欲しいと言ったので、お互いが望み通りのものを手に入れました。


ドルヨーダナは、国に帰って叔父に「私はクリシュナ神から強い軍隊と武器を授かった。」言いました。すると、叔父はがっかりして言いました。「クリシュナ神がいるところにこそ、勝利が訪れるのに。」と。




聖書にも同じことが書かれています。「神のおられるところには、すべての恩寵が与えられる」神を求めること、神と自分自身のつながりを見極めることがとても大切です。

 クリシュナという言葉には二つの意味があり、一つは、「あらゆるものを惹きつける力」という意味です。その力のおかげですべての力が 100%の力となり、すべての存在が完全なものとして存在することが可能になります。そして、もう一つは「あらゆる罪を取り除く」という意味です。イエスキリストという言葉も同じです。「救世主」という意味で、すべての存在を引き寄せ、すべての罪を取り除くことです。

 「マハーバーラタ」には、103の物語が語られています。私たちは知性を使って、その物語の背後にある真の意味を読みとらなくてはなりません。それができてこそ、「マハーバーラタ」も「バガヴァッド・ギーター」も日常に活かすことが可能となり、私たちを助けてくれるのです。

 私たちが深い眠り、熟睡の状態にある時には、ポジティブな思考もネガティブな思考も、どちらも存在しませんが、目覚めている時には、私たちの心には、良い思考と悪い思考とが存在しています。

 アルジュナはクリシュナ神の献身的な信者でした。アルジュナが持っていたあらゆる問題は、クリシュナ神によって解決されました。「アルジュナ」とは「VICTORY=勝利」という意味です。それまでの人生で自分が負けたことを認めたことはありませんが、クリシュナ神に対して強い信仰を持っていました。「バガヴァッド・ギーター 第1章」には、アルジュナの苦悩が書かれています。

第2章はサーンキャ・ヨーガ(自己に対する知識の道)とされています。「バガヴァッド・ギーター」の中でも最も大切な章です。



目に涙を浮かべているアルジュナに対して、クリシュナ神は次のように言いました。「アルジュナよ、こんな大事な時にどこからそんな弱気が出てくるのだ。高貴な家柄の君らしくない。そんなことでは高い天界には行けずに、不名誉なまま下界に落ちてしまう。アルジュナよ、そんな態度は男らしくもないし、君にふさわしくもない。さあ、立ち上がりなさい！」するとアルジュナが言いました。「自分の親類、友人や恩師を殺すくらいなら、私はむしろ戦うことをやめて、乞食になって暮らす方がましです。なぜなら、私が敵方のあの方たちを殺したならば、私の富も財宝も血で汚れるからです。勝つべきか負けるべきか、私にはそれすらもわかりません。カウラヴァと対立してはいるものの、彼らが死ねば私の生き甲斐もまた、なくなるのではないのでしょうか。私は心の弱さゆえに平静さがなくなり、進むべき道がわからずに迷っています。あなたにすべてを投げ出してひれ伏しますので、どうか私に最善の方法を教えてください。」

アルジュナたちは国を追放されて身を隠していたために、戦争の準備をするのに13年間もかかりました。それなのに、今さら自分は戦えないと言い出したのです。クリシュナ神に、「あなたから答えを得られるまでは、私は戦えません。」と言いました。



アルジュナの問題とは何でしょう？

ドルヨーダナをはじめとするカウラヴァたちは、否定的な考えの人たちでした。パンダヴァ5人兄弟は正義の人たちです。アルジュナも正義の人でしたが、普通の人間と同じような側面を持っていました。「普通の人間」とは、真実を知らずに人生を終えてしまう人のことです。クシャトリア(戦士)というカーストであるアルジュナの義務は闘うことです。私たちも、これを行う方が良いかどうか、迷うことがあります。人間だけが知性を持っていて、自分の行動を決めることができます。アルジュナは知性を使い始めました。知性を使って将来のことも考え始めました。

「カウラヴァたちを殺して一体何になるのでしょうか。たとえ悪者であっても、殺したら私自身が罪を犯すことになります。それなのになぜ、私たちが一族を滅ぼすようなことをしなくてはならないのでしょうか？」彼は親類や師を殺すことを恐れていました。



アルジュナの苦悩、内側で戦っていたものは何だったのでしょうか？

欲望と義務の葛藤です。失った自分の王国を取り戻したいが、そのためには自分の愛する親類や恩師や友人を殺さなくてはなりません。その人たちを殺してまで国を取り戻したくはない。戦士にとっての義務は戦場で悪い敵を倒すことですが、その敵は自分の親しい人たちなのです。そうまでして義務を果たしたいとは思えなかったのです。ですからクリシュナ神に「助けてください。」と自分を明け渡したのです。「バガヴァッド・ギーター」は自分自身を掘り下げる聖典であるとも言われています。



皆さんは昨夜アラティーをしました。アラティーは自分自身を神様に明け渡し、委ねる気持ちで行います。

自分を神様に明け渡さなければ、私たちの人生は平和になりません。自分を完全にクリシュナ神に明け渡したあと、アルジュナの心は平和になりました。聖書にも同じことが書かれています。「あなたの心を空にすれば、私が満たしてあげよう」と。

さて、どうやって自分自身を空っぽにしたらいいのでしょうか？

ギターを続けて言っているとターギーになります。ターギーとは放棄という意味で、自分・世界・神 に対する誤った考え方や概念を手放してゆくことです。これこそが「バガヴァッド・ギター」のエッセンス、本質です。

それでは、それを私たちの日常にどのように適用していったらいいのでしょうか？自分自身を明け渡すとは、どういうことなのでしょう？それはこの物語を通してしか理解できないことです。私たちの心は簡単ではありません。心は「はい、はい、はい」と言っても、ちゃんと聞いてはいないのです。これが心の性質です。

自分を明け渡すとは、どういうことでしょうか？

インドの昔話をしましょう。

あるところに、一人の青年がいました。一生懸命に勉強をして、大学では優等生になりました。そして、自分は偉いと思うようになりました。この青年は自分が誰よりも頭がいいと思っていたので、自分にふさわしい仕事も、結婚の相手もないと思いました。年月が経ち、両親は年老いて亡くなりました。そのために収入もなくなりました。そして、彼は親から残された物を売って生活をしていました。亡くなった父親の親友がやって来ました。素晴らしい人です。彼は青年に向かって言いました。「君の考え方、生き方は良くないよ。あの山の上に君が小さい頃、お父さんが君を連れて会いに行った一人の僧侶が住んでいます。彼に会って是非親交を深めなさい。正しいものの考え方ができるように、きっと導いてくれるでしょう。」今までそのようなアドバイスをしてくれる人がいなかったため、青年は僧侶に会うことにしました。青年は山を登りながらも、否定的な考えで一杯でしたが、道端の花や草を手で折りながら向かいました。



今朝、私たちも山や海辺を歩きました。森の中を歩く時も神様の名前を唱えるようにして下さい。そうすると、自分の内面に平安を得ることができます。私たちは海岸で太陽にお祈りをしました。そのように、歩きながらも祈りもしましょう。



さて、僧侶は青年を見て、彼が幼い頃に会ったことがある青年だと気づきました。そして僧侶はお茶の準備をしました。やかんを持ってきて、カップとお皿を用意し、カップにお茶を注ぎました。やがてそのカップは一杯になりました。お茶を注ぎながら僧侶は青年に言いました。「君はいつも思考で一杯だね。」青年のカップはお茶で一杯です。そしてとうとう溢れ出し、受け皿の上にもこぼれ出しました。さらにそこから溢れて青年の洋服にもこぼれたのです。「これ以上、お茶を注ぐのをやめて下さい。」と青年は言いました。僧侶も「やめて下さい、やめて下さい！」と叫びました。それから突然、僧侶は部屋を出て行きました。青年の洋服はびしょびしょになってしまいました。そして、僧侶が戻ってこないため、青年は自分の家に帰りました。しばらくして父親の親友が来たときに「お坊さんがお茶をこぼしてひどいことになったよ。」と青年は言いました。「僕の洋服がびしょびしょになったので、お茶を注ぐのをやめて下さいって言ったのに、あのお坊さんったら、僕よりも大きな声でやめて下さい、と叫んだのです。すると、急にやかんを置いて部屋を出て行ってしまったんですよ。」お父さんの親友は青年に言いました。「いい学びをしましたね。僧侶

はやめて下さい、やめて下さいと、言ったのでしょう。その意味がわかりますか？」青年はその意味に気がつきませんでした。僧侶が何をやめるように言ったのかを聞くべきでしたが、青年は自分の汚れた洋服のことで頭が一杯だったのです。



私たちは昼も夜も何かを考えてばかりいます。この思考することをやめない限り、熟睡することもできません。ヨーガハ・チッタブリッティ・ニローダハとはこのことです。



父親の親友は、青年にもう一度あの僧侶の所に行くよう勧めました。「君が平和に幸せに生きていけるように彼が助けてくれるから、花と果物を少し、そして謙虚さを持って行きなさい。着いたら僧侶に花と果物を捧げなさい。」青年は、清潔な洋服に着替えて花と果物を買って、今度は自然を敬いながら、ゆっくりとした足取りで山を登って行きました。僧侶は山の上から彼が登って来るのを見ていました。青年は持参した花と果物を差し出しました。「私はそんな物は欲しくない。」と僧侶は青年に向かって言いました。「自然の果物や花が沢山あるから。その花は神さまに捧げなさい。花も果実もすべては神様のものです。私は花も果実もいらないから、ここを立ち去りなさい。」と言いました。青年は泣き始めました。「私にはもう行く所ありません。話す相手もいません。仕事もありません。食べ物もありません。わたしはどこに行ったらいいのでしょうか？」僧侶は青年を見て、「価値が全くないと思う物を探して、ここに持って来なさい。」と言いました。それは何か、青年は考えました。小石や髪の毛を価値のないものと判断しましたが、小石も髪の毛も青年に向かって言いました。「私と全く同じものを見つけることができますか？」と。この世の中にある全てのものは、神様の恩寵の下に一つ一つ違う特質を持っていて、それを何かと取り替えることはできないのです。

青年は、何か力を得ることで、価値を得るのだと信じていたのですが、初めて、この宇宙に存在するすべてのものに価値があるということがわかったのです。そうして、父親の友達が言っていたことは正しかったと気が付いたのでした。



ありとあらゆるものは価値がありますが、「私」「我」と思っているものには価値がないのです。(エゴのあるものには、価値がないということです)そして「I=私」がある限り、安らかに眠ることはできません。そしてこの「I」が消えたときに、初めて本当の至福がやって来ます。すべての宗教は遺体に敬意を払いますが、それは遺体には既にエゴがなくなっているからなのです。



青年はもう一度僧侶のところに行きました。そして自分自身を明け渡しました。「私は何者でもありません。行く所ありません。自分には特別な価値などないと気がつきました。」これが自分自身を明け渡すということです。私たちは深い熟睡状態の時には暗闇だけを見ていますが、自分自身を完全に明け渡したときには、もはや、暗闇というものは存在しません。それは「知恵」と呼ばれるものなのです。



ヨガとは何でしょうか。Control of mind です。ありとあらゆる条件づけや制限を超えたところに行くこと、自由になった状態のことです。これが自分自身を明け渡すということなのです。そこには自分の体や心というエゴはありません。ヨガに至る道は不屈の精神を持って、強い心や知性を持って進まなければなりません。



「バガヴァッド・ギーター」のアルジュナも私たちと同様に人類共通の過ちを3つ犯しています。空間や意識は触ることができません。しかし、神・空間・意識はあらゆるところに遍在します。そのことに気づかないでいることが、アルジュナや私たち人間が犯している1番目の過ちです。2番目にアルジュナが犯した過ちは、自分の本来の性質のことをすっかり忘れ、クリシュナ神が神聖な存在ということを忘れ、神様から自分は守られ支えられているということも忘れてしまったことです。私たちのこの体の中にも異なった神様が、それぞれ異なった器官として存在しています。目は太陽の神スーリヤ、耳はあらゆる方角に存在する神と繋がっています。そして私たちの足にはヴィシュヌ神が、インドラ神は私たちの腕に、ブラフマー神は私たちの内臓に存在しています。ですから、私たちの身体には神聖なものが満ち満ちているのです。



私たちの知性はいつも安定した状態でなければなりません。外からの刺激にいつも揺れ動くようではいけません。知恵に基づくしっかりと安定した知性を持つことです。ヨガの生徒として、「バガヴァッド・ギーター」を学ぶ生徒として、強い信念を持ちましょう。水はあらゆるところにあります。それと同じように、自己もあらゆるところに存在しているのです。自己は永遠のもので、決して朽ちることなく、始まりがいつかわからないほど古いものです。自己はあらゆるところにいきわたり、銀河系全部に満ちています。銀河系全部にあなたの自己は広がっているのです。これが皆さんの本質です。

それから、瞑想とは何でしょうか。目を閉じてリラックスするとあなたの自我はどこかに消えていきます。瞑想とは、体も心も超えたところに行くことで、ただ自己(真実の自分)があるのみです。これが至福です。私たちは、空間を超えてあらゆるところに満ち満ちて遍在する意識なのです。



「バガヴァッド・ギーター」はシンプルで美しく、とても意味の深い聖典です。自分自身を明け渡す真の意味を教えています。そのために、私たちは心を鎮めなければなりません。それがヨガなのです。